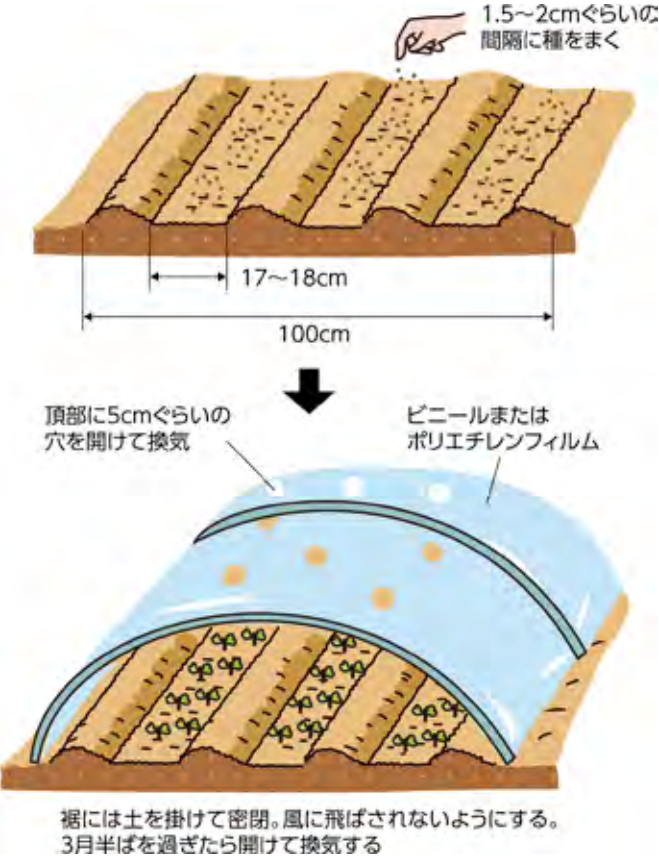


春取り小カブのトンネル栽培

立春が過ぎ、日差しが強まりを感じ始める頃になると、今年の家庭菜園の仕事始めです。一番先に種まきできるお薦めの野菜は小カブです。

トンネルで被覆し、保湿すれば4〜5月に白肌できめ細かく肌触りの良い、おいしい小カブが楽しめます。種のまきどきは2月中旬です。寒い地域では気温差を考慮して種まきを遅らせましょう。

種のまき方は、畑に1m幅のベッドを作り、全面に完熟堆肥と菜種油かす、化成肥料を均一になるように



ばらまき、15cmほどの深さによく耕し込みます。そしてまき溝をくわ幅よりやや広め(17〜18cmぐらい)に3列、溝底が平らになるよう丁寧に作り、溝の外にはみ出さないよう注意しながら、ジョウロでたっぷり灌水しておきます。発芽するまでトンネルは除覆しないで、このことを考えて十分に灌水してください。

種まきはまき溝の中に種間隔が1.5〜2cm離して満遍なくまき、その上に1cmぐらいの厚さに覆土します。トンネルの裾には土を掛けて

密閉して発芽を促します。種まきたらすぐ密閉してしまうので、発芽と初期生育に必要な量を十分灌水しましょう。

発芽して本葉2〜3枚に育ったら、トンネルの頂部に小穴を開けて換気し、さらに内部が日中30度を超すようになればトンネルの裾も開けて気温の上昇を防ぎます。

育つにつれて株間が込み合わないよう間引きをし、灌水を適宜に行つて乾き過ぎないように注意してください。また、生育中は、葉の緑が淡くなりかけた頃に、溝の外側に化成肥料をばらまいて追肥します。

球径が5cm内外に育ったら収穫開始です。途中で間引いた物も上手に利用しましょう。春の小カブは葉も柔らかいですので、汁の実や漬物にしてもおいしくいただけます。

トンネル換気、除覆すると、コナガ、アブラムシ、ヨトウムシの幼虫などが害するので、発生状態に注意し、初期に適応殺虫剤を散布して防ぎましょう。

小カブはその後も次々に種をまいて栽培できます。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

園芸書コーナー

育ちがよくなる!病害虫に強くなる!
 植え合わせワザ88
決定版 コンパニオンプランツの野菜づくり
 木嶋 利男 著 (定価1,836円)

種類の異なる野菜を一緒に植えることで生長を促進させ、病害虫の被害を防ぐという「コンパニオンプランツ」。相性のよい88の組み合わせと栽培方法、植え合わせのワザをわかりやすいイラストで詳しく紹介。

家庭菜園の初心者から上級者まで、幅広い方におすすめの園芸書をご紹介します。野菜づくりの参考に、ぜひどうぞ!



お申し込みは、お近くのJAへお電話ください。家の光図書館の情報はインターネットでご覧いただけます。 [家の光ネット](http://www.ienuhikari.net) <http://www.ienuhikari.net>